

名古屋市内で疥癬症によって死亡したと思われるアカギツネ

曾根 啓子⁽¹⁾ 西村 祐輝⁽²⁾ 野呂 達哉⁽¹⁾⁽¹⁾ なごや生物多様性センター 〒468-0066 愛知県名古屋市天白元八事5丁目230番地⁽²⁾ 名城大学農学研究科環境動物学研究室 〒468-8502 愛知県名古屋市天白区塩釜口1丁目501番地2 cases report of severe mange of red fox (*Vulpes vulpes*)
in Nagoya city, central JapanKeiko SONE⁽¹⁾ Yuki NISHIMURA⁽²⁾ Tatsuya NORO⁽¹⁾⁽¹⁾ Nagoya Biodiversity Center 5-230, Motoyagoto, Tempaku-ku, Nagoya, Aichi, 468-0066, Japan⁽²⁾ Laboratory of Environmental Zoology, Graduate School of Agriculture, Meijo University, 1-501 Shiogamaguchi, Tempaku-ku, Nagoya, Aichi, 468-8502, Japan

Correspondence:

Keiko SONE E-mail: sonekei@hotmail.co.jp

要旨

疥癬症で死亡したと思われるアカギツネ (*Vulpes vulpes*) 2頭がなごや生物多様性センターに収容され、解剖と標本化が行われた。1頭は2013年1月23日に名古屋市守山区小幡緑地で発見された雌の成獣 (Field No.13012501)、もう1頭は2018年3月13日に同市天白区相生山付近で発見された雌の成獣 (Field No. 18031301) であった。

アカギツネ (*Vulpes vulpes*, 以下キツネ) は、食肉目イヌ科に属する中型の哺乳類で、名古屋市のレッドリストでは絶滅危惧IA類に指定されている (野呂, 2015)。これまで市内におけるキツネの分布域は東谷山を中心とした市北東部 (守山区) に限られていると考えられていたが、最近ではこれよりも西部 (北区, 中川区) や南部 (天白区) での目撃情報 (野呂, 2014) があることから、河川敷伝いに分布域を拡げているようである。しかし、その一方で、キツネの生存を脅かすような疾患の存在も懸念されている。疥癬症はヒゼンダニというダニの一種が、皮膚の角質層内に寄生しておこる皮膚感染症であり、北海道のキツネ (*V. v. schrencki*) で症例報告が多い (塚田ほか, 1999)。日本の野生哺乳類では、キツネ以外にも、タヌキ (*Nyctereutes procyonoides*)、アライグマ (*Procyon lotor*)、ハクビシン (*Paguma larvata*) などの食肉類、イノシシ (*Sus scrofa*)、カモシカ (*Capricornis*

crispus) などの偶蹄類が宿主域として知られている (佐鹿ほか, 2009; 長濱ほか, 2017)。疥癬症は患部に激しい搔痒感を引き起こすため、個体に大きなストレスを与えるとされている (McCarthy et al., 2004)。また、患部を引っ掻くことで、脱毛や痂皮が生じ、重篤化すると栄養失調に陥って衰弱あるいは餓死に至ることもあることから (長濱ほか, 2017)、キツネの生息数の減少に影響している可能性も報告されている (塚田ほか, 1999)。名古屋市においては、疥癬症の症状が見られるタヌキがしばしば確認されるが (野呂, 2013)、キツネは目撃情報自体が少ないため、疥癬症に関する確かな記録はほとんど存在しない。名古屋市に隣接する尾張旭市の小幡緑地公園東園内に設置された自動撮影装置に、疥癬症の症状を呈するキツネの姿が写っていたという記録 (小野・野呂, 2018) があることから、市内のキツネにも蔓延している可能性も考えられるが、その実態は不明である。

したがって、疥癬症と見られるキツネが発見された場合には、発見に至った経緯や個体の写真、可能であれば解剖の記録や標本を残しておくことが大切であると考えられる。これまでなごや生物多様性センターに収容されたキツネの中に、疥癬症によって衰弱・餓死したと思われる2頭が含まれていたもので、これについて記録を残すこととする。

〈1 頭目〉

2013年1月23日に、名古屋市守山区の小幡緑地本園のせせらぎ広場トンボ池でキツネ1頭が死亡しているのを、この緑地で保全活動を行っている「愛知守山自然の会」の会員が発見した。この個体はいったん園内に埋められたが、同月25日に発見の知らせを受けたなごや生物多様性センターの職員(野呂)が個体を掘り返して持ち帰り、同施設に収容した。この個体は野呂(2013)で報告された疥癬症のキツネと同一個体で、頭部から腹部の腹側、ならびに臀部から後肢にかけて脱毛や痂皮といった疥癬症に特有な症状が認められた(図1)。この個体には目立った外傷や骨折等がなかったことから、交通事故等に遭って死亡したわけではなく、疥癬症が原因で衰弱・餓死したものと推察された。個体の外部形態計測および解剖を行った後、全身骨格標本(標本番号: MA00048)を作成した。この個体の計測データを以下に示す。

フィールド番号: 13012501

発見日: 2013年1月23日

発見場所: 名古屋市守山区小幡緑地本園のせせらぎ広場
トンボ池

性別: 雌 齢段階: 成獣

体重: 3,940 g 頭胴長: 627 mm 尾長: 373 mm

後足長(ツメ無): 138 mm 後足長(ツメ有): 146 mm

耳長: 86 mm

〈2 頭目〉

2018年3月13日に、名古屋市天白区の相生山に面した荒地(天白区菅田3丁目)で著しく消瘦し、脱毛したキツネの死亡個体を市民が発見した。市民の通報を受けたなごや生物多様性センターの職員(野呂)が回収し、同施設に収容した。全身の写真撮影(図2)を行った後、外部形態計測および解剖を行い、全身骨格標本とした。この個体には、全身、特に腹部から臀部の背側にかけて著しい脱毛と痂皮が認められ(図2c)、重篤な疥癬症の様相を呈していた。症状は頭部にも及んでおり、眼球周囲の皮膚が角化していたことから(図2b)、視力も著しく低下し、餌を自力で採ることは困難であったと推察された。1頭目と同様に、外傷や骨折は認められなかったが、後の頭骨標本の観察で、複数の歯が喪失しているのが判明した。キツネの上下顎で42本ある歯(歯式はI3/3, C1/1, P4/4, M2/3=42)のうち、前歯部の6本(左上顎



図1. 名古屋市守山区小幡緑地で死亡していたキツネ(Field No. 13012501)における脱毛と痂皮の状態。

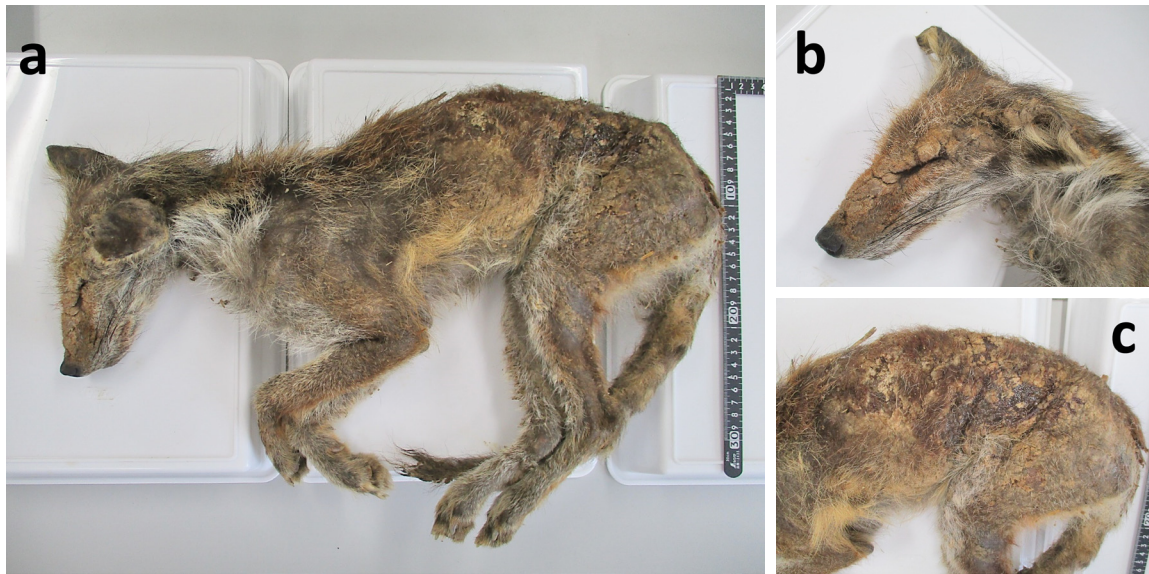


図2. 名古屋市天白区相生山で死亡していたキツネ（Field No. 18031301）における脱毛と痂皮の状態（a：全身, b：頭部, c：腹部および臀部）.

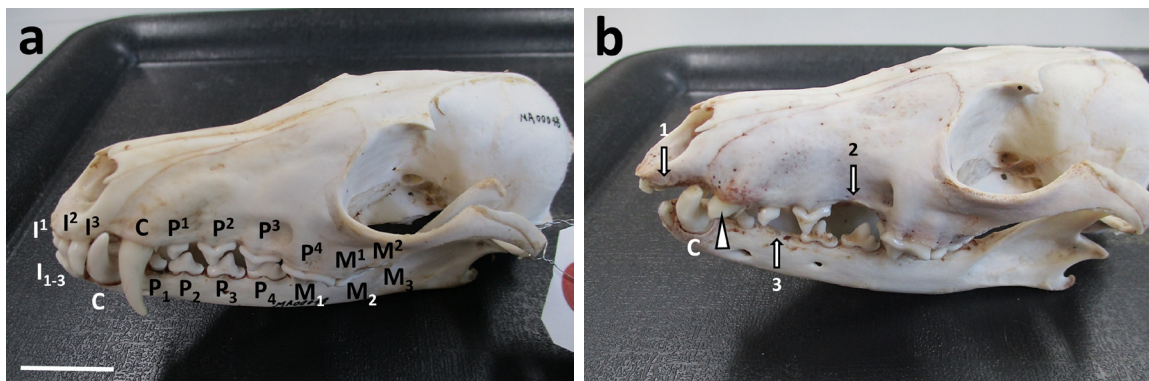


図3. 名古屋市のキツネの頭骨標本（スケールバー：2 cm）.
(a) 正常な歯列をもつ個体（Field No. 13012501）.
(b) 歯の喪失や破折があった個体（Field No. 18031301）. 左上顎の第一・二・三切歯（I¹⁻³；矢印1），左上顎の第四小臼歯（P⁴；矢印2），左下顎の第二小臼歯（P²；矢印3）が喪失し，左上顎の犬歯（C；矢印）が破折しているのが認められた.

および右下顎の第一・二・三切歯）ならびに臼歯部の2本（左上顎の第四小臼歯，左下顎の第二小臼歯）が喪失し，左上顎の犬歯も破折していた（図3）. このことから，疥癬症による栄養失調だけでなく，歯の機能の一部を失っていたことも，採餌を妨げて個体を衰弱・餓死させる要因となったことが示唆された. この個体の計測データを以下に示す.

フィールド番号：18031301

発見日：2018年3月13日

発見場所：名古屋市天白区菅田3丁目（相生山に面した

荒地）

性別：雌 齢段階：成獣

体重：3,580 g 頭胴長：553 mm 尾長：394 mm

後足長（ツメ無）：137 mm 後足長（ツメ有）：145 mm

耳長：68 mm

謝辞

キツネの死亡個体を収容するにあたり，愛知守山自然の会の石原則義氏にお世話になりました. また，吉村文孝氏（名古屋大学全学技術センター）には，キツネの解剖にご協力を頂きました. この場を借りて御礼申し上げます.

引用文献

- McCarthy, JS., DJ. Kemp, SF. Walton, and BJ. Currie. 2004. Scabies: more than just an irritation. *Postgraduate Medical Journal*, 80: 382-387.
- 長濱理生子・吉野智生・浅川満彦. 2017. 釧路市動物園内で収容された疥癬罹患タヌキ *Nyctereutes procyonoides* の1例. *北海道獣医師会雑誌*, 61: 9-11.
- 野呂達哉. 2013. 小幡緑地と金城学院大学で確認されたアカギツネ. *生きものシンフォニー*, 7号, なごや生物多様性センター.
- 野呂達哉. 2014. 名古屋市のアカギツネその後. *生きものシンフォニー*, 12号, なごや生物多様性センター.
- 野呂達哉. 2015. アカギツネ *Vulpes vulpes* (Linnaeus). 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック なごや2015 動物編, pp. 40. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 名古屋.
- 小野知洋・野呂達哉. 2018. 小幡緑地公園東園における野生哺乳動物のセンサーカメラによる記録. *なごやの生物多様性*, 5: 75-80.
- 佐鹿万里子・森田達志・的場洋平・岡本 実・谷山弘行・猪熊 壽・浅川満彦. 2009. 野生アライグマ *Procyon lotor* にみられた疥癬の一例. *日本野生動物医学会誌*, 14: 125-128.
- 塚田英晴・岡田秀明・山中正実・野中成晃・奥 祐三郎. 1999. 知床半島のキタキツネにおける疥癬の発生と個体数の減少について. *哺乳類科学*, 39: 247-256.